

「今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」

(ルカによる福音書 19:1-10)

先週の福音に続き、今日登場するザアカイも徴税人です。さらにその頭であり、金持ちでした。金持ちは、特にルカ福音書においては、財産への執着ゆえに神の救いから遠い存在として描かれます。徴税人で金持ち…救いからほど遠いとされた存在です。しかし、このザアカイも救いへと招かれます。

主イエスの旅はエリコに入ります。これまでの旅で数々の奇跡を行ってきた主イエスの評判は知れ渡っていたようで、大勢の群衆が主イエスを見ようと群がってきます。ザアカイも主イエスを見ようとやってきますが、人混みに遮られて、主イエスが見えません。彼は走って先回りし、ついには道端のいちじく桑の木に登ります。当時の成人男性の行動として、走ることも、まして木に登ることも、恥ずかしいことだとされていました。しかし彼は、そんなこと気にしてられないほど、主イエスを見たいと望んだのです。ザアカイはお金には不自由しなくとも、人々から「罪人」とされ、彼自身、わたしは神から離れて生きている…という葛藤のなかで、まことの生き方、まことの「救い」を求めていたのです。そのザアカイに主イエスは呼びかけます。

「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」ザアカイは跳び上がるほど驚いたでしょう。主イエスは、ザアカイが名乗る前からザアカイの名を知り、その名を呼ばれました。主イエスは、すべての名を知っており、その名を呼んでくださるのです。この箇所は以下のように直訳できます。

「ザアカイよ、急いで降りてきなさい。なぜなら今日、あなたの家にわたしが留まることになっている。」

「今日」主イエスがザアカイの家に留まることは、定められていたこと、ということです。今日という日は、他にもない神のよって定められた日であり、ザアカイは今日、出会うべくして主イエスと出会ったのです。

「人の子は、失われたものを捜して救うために来た」と主イエスは言われます。神は、この主イエスと、救いを求めるすべての人とを出会わせてくださいます。ザアカイにとって、いちじくの桑の木がその場所であったように、わたしたちが求めるならば、神は主イエスとの出会いの場所と、その時をご用意してくださいます。ザアカイに訪れた驚きと喜びは、わたしたちにも用意されているのです。